

若年層における仕事と育児の両立に関する意識調査 (速報)

トモイク
厚生労働省 共育プロジェクト

2025年7月30日



調查概要

調査目的

- 今年度事業の核でもある共働き・共育てに関する若年層の意識を把握する。
- 若年層の育休やワークライフバランスへの意向を明らかにする。
- 学生時代と社会人になってからの意識の変化についても調査を行う。

調査手法

WEBによる定量調査

※性年代別等人口に合わせたウェイトバック集計を実施

対象者

全国 15-30歳男女 高校生・大学生など及び若手社会人

回答数

13,709人

調査実施日

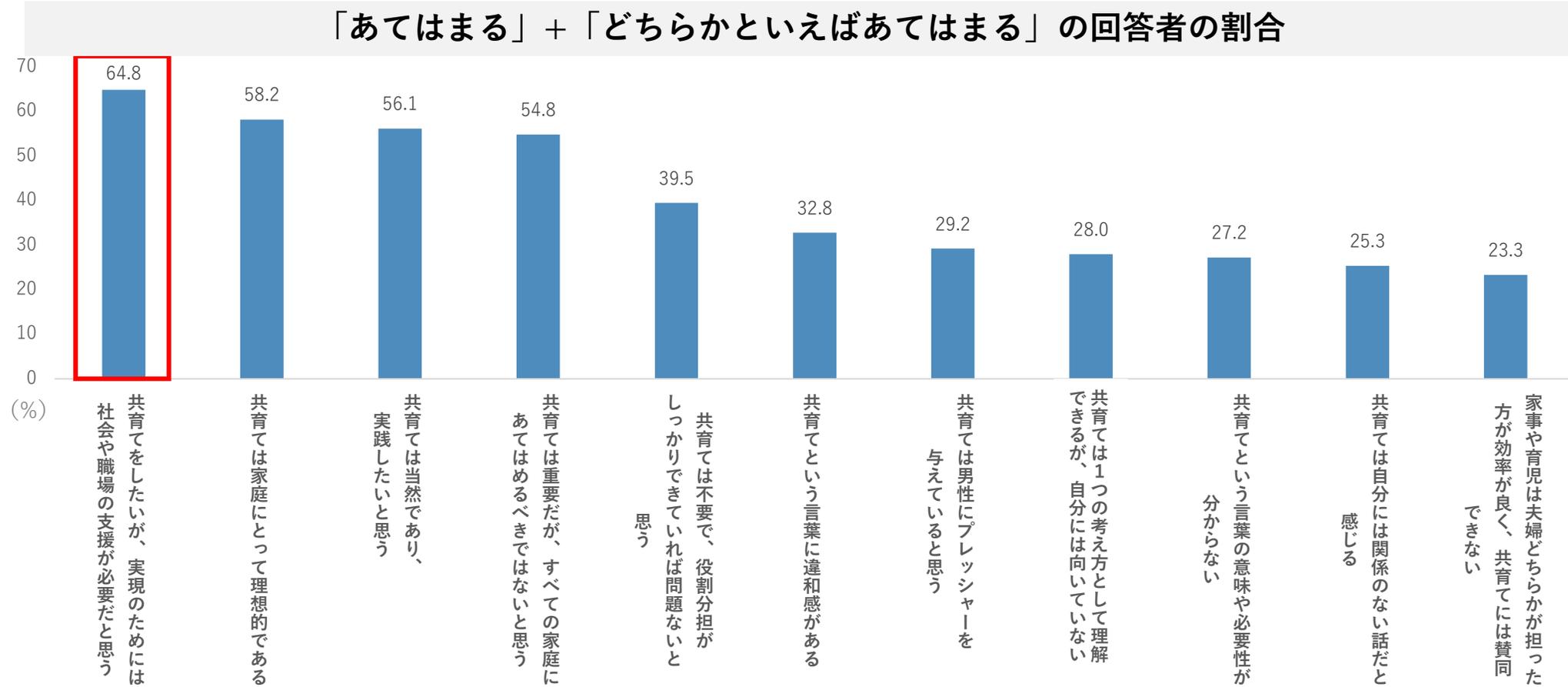
2025年6月21日（土） ～ 2025年6月30日（月）

01 共育てに対する意識

「共育てをしたいが、実現のためには社会や職場の支援が必要だと思う」
 が最も多く、次いで「共育ては家庭にとって理想的である」
 「共育ては当然であり、実践したいと思う」が多い。

※「共育て」とは、パートナー同士が協力し合って、家事・育児に取り組むことをいいます。

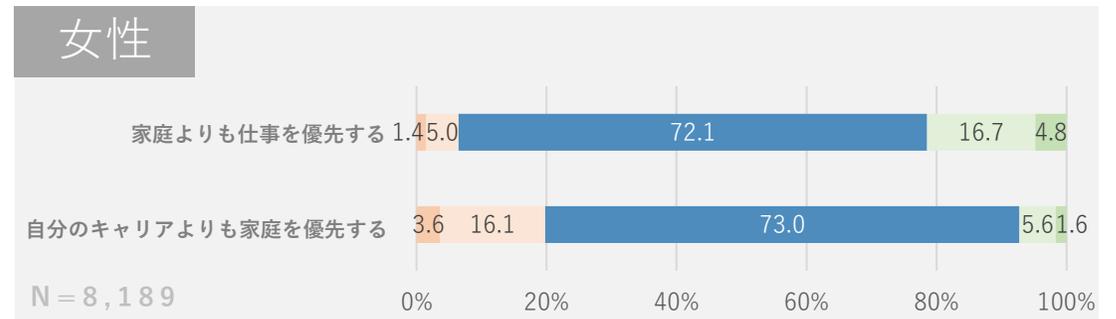
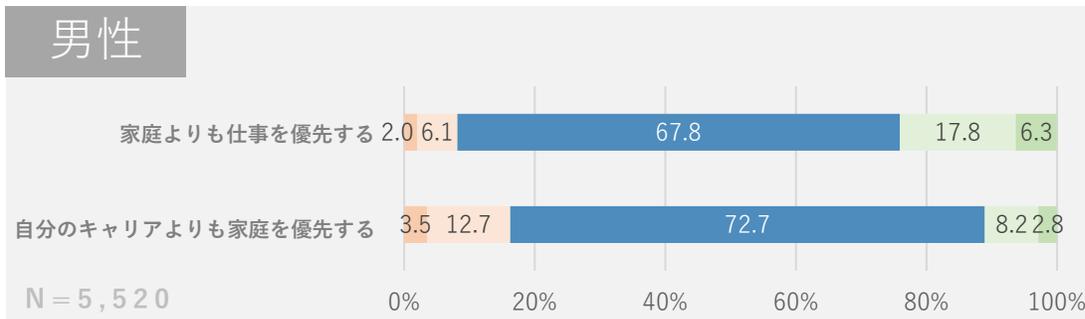
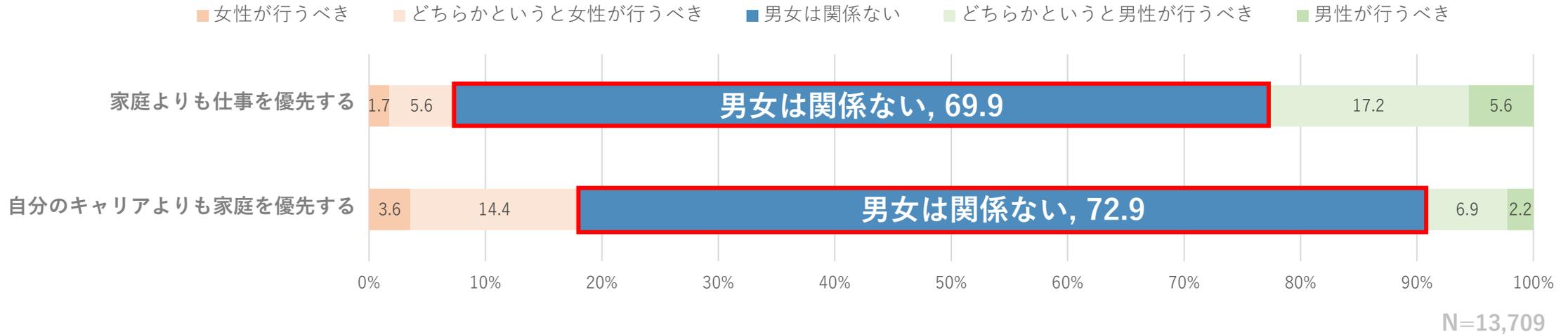
■ 「共育て」について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。



02 家事・育児と仕事の両立意識

家庭と仕事（キャリア）の優先順位付けについて、 約7割が性別は関係ないと回答。

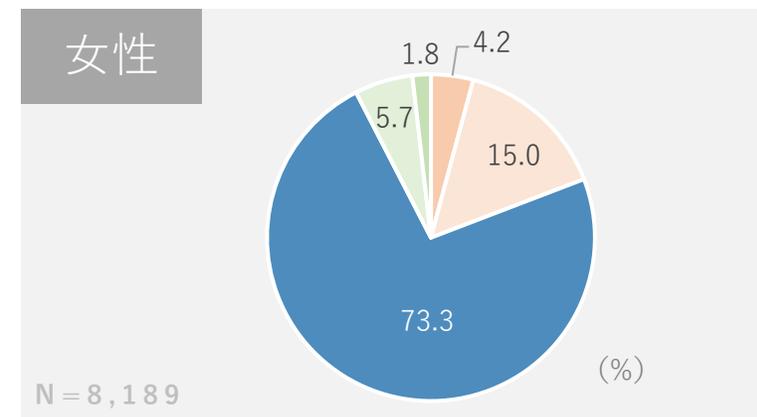
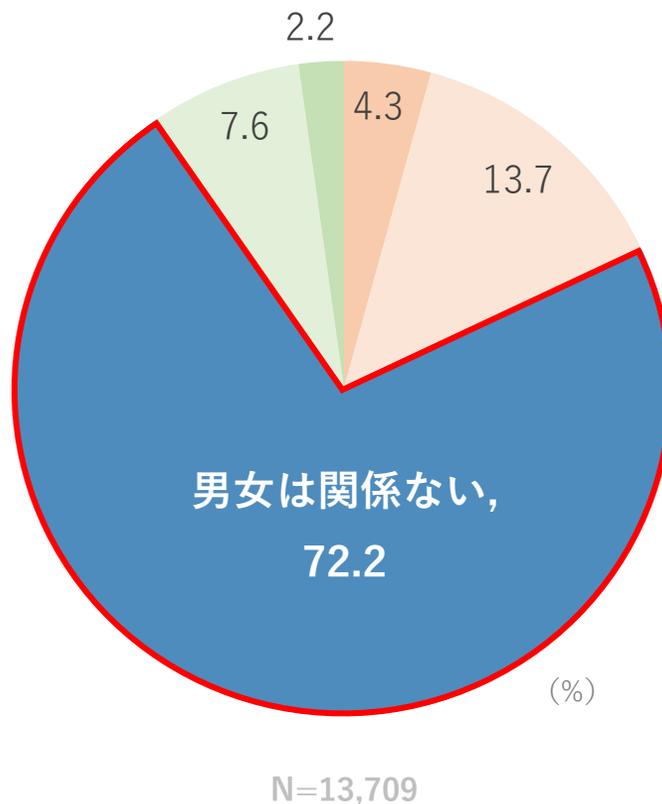
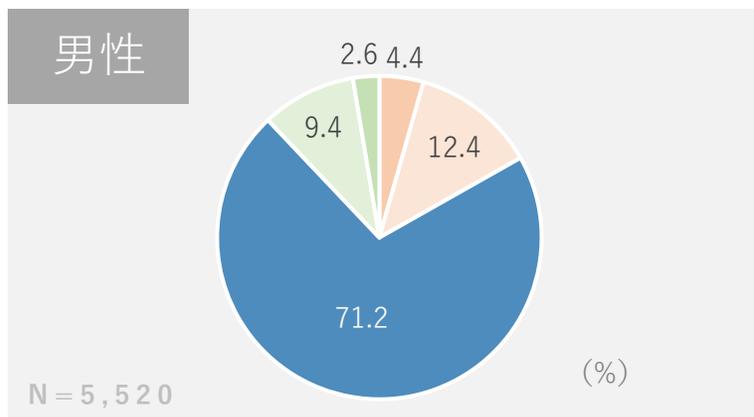
■以下の項目について、あなたは男性と女性のどちらが行うべきだと思いますか。



育休取得について、7割以上が性別は関係ないと回答。

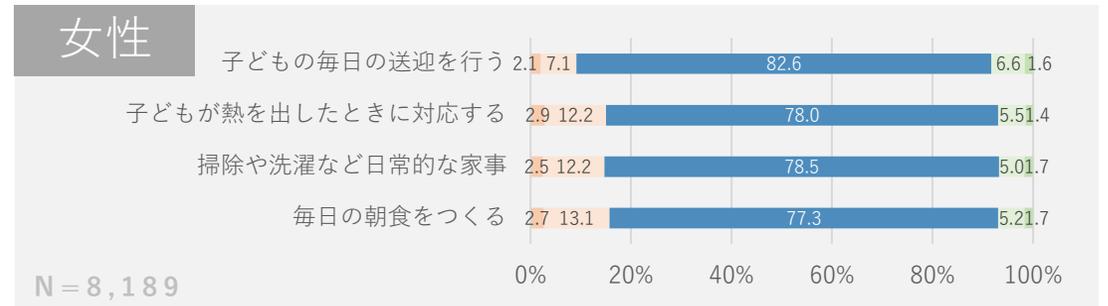
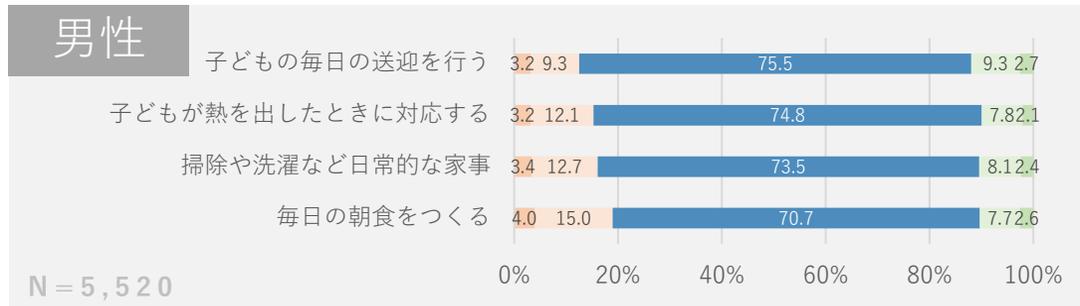
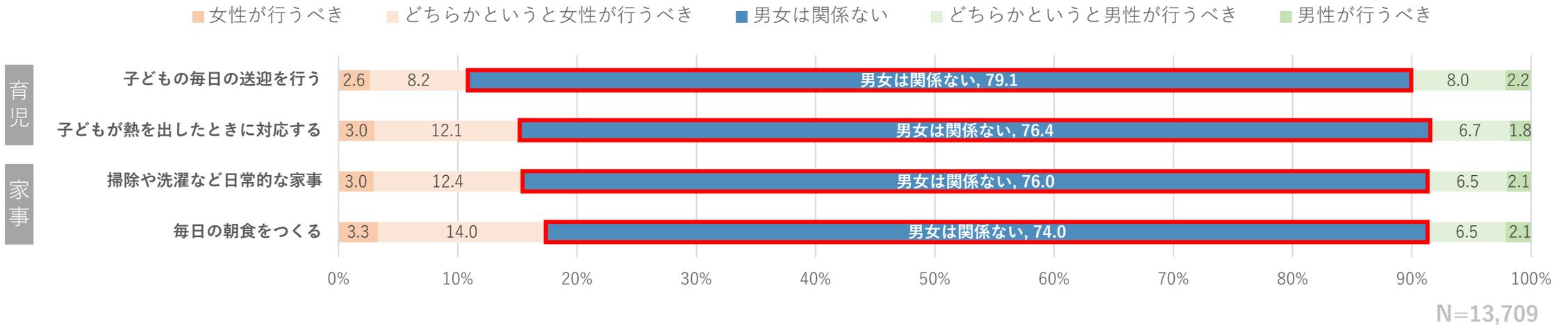
■以下の項目について、あなたは男性と女性のどちらが行うべきだと思いますか。

■ 女性が行うべき
 ■ どちらかというと女性が行うべき
 ■ 男女は関係ない
 ■ どちらかというと男性が行うべき
 ■ 男性が行うべき



育児や家事に関する項目について、 7割以上が性別は関係ないと回答。

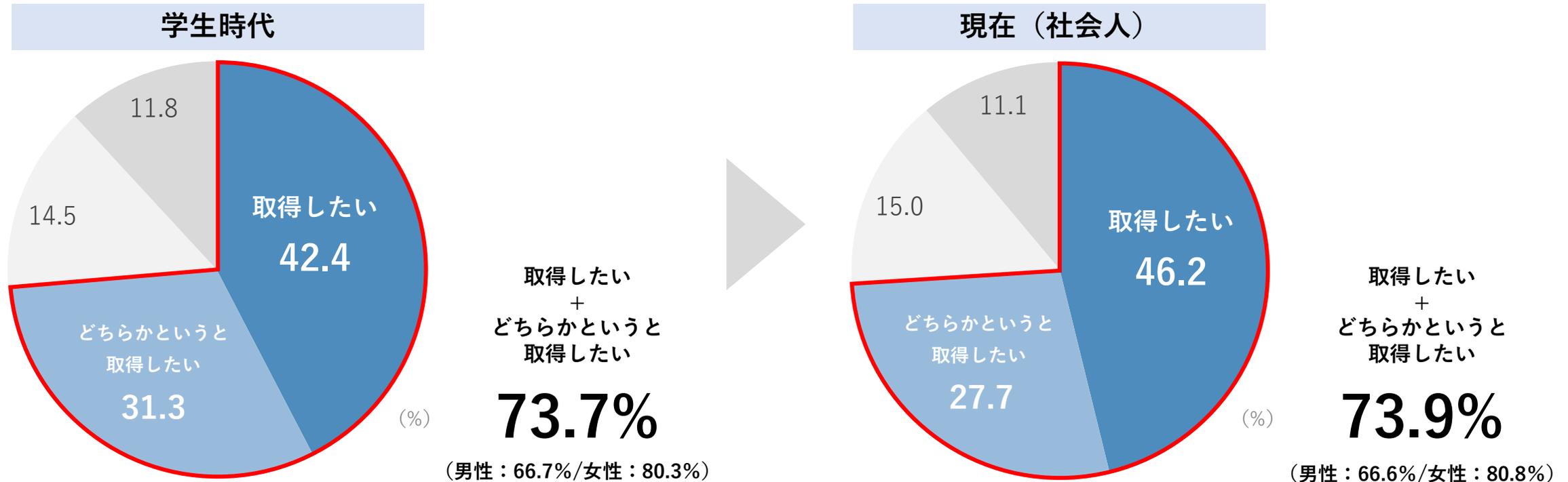
■以下の項目について、あなたは男性と女性のどちらが行うべきだと思いますか。



若年社会人の育休取得意向は、「学生時代：73.7%」、「現在：73.9%」といずれも7割以上。

■あなたは、ご自身で育休をどの程度取得したいと思いますか。

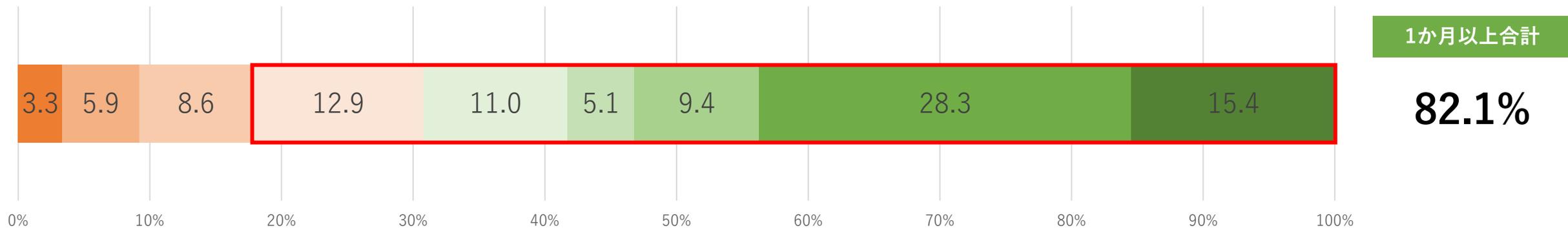
■取得したい ■どちらかという取得したい ■どちらかという取得したくない ■取得したくない



若年社会人の約8割が1か月以上の育休取得を希望。 男性は、70.0%が1か月以上の育休取得を希望。

■あなたは、ご自身で育休をどの程度取得したいと思いますか。

■ 1週間未満 ■ 1-2週間未満 ■ 2週間-1ヶ月未満 ■ 1ヶ月-3ヶ月未満 ■ 3ヶ月-6ヶ月未満 ■ 6ヶ月-9ヶ月未満 ■ 9ヶ月-1年未満 ■ 1年-2年未満 ■ 2年以上



N = 6,300(※)

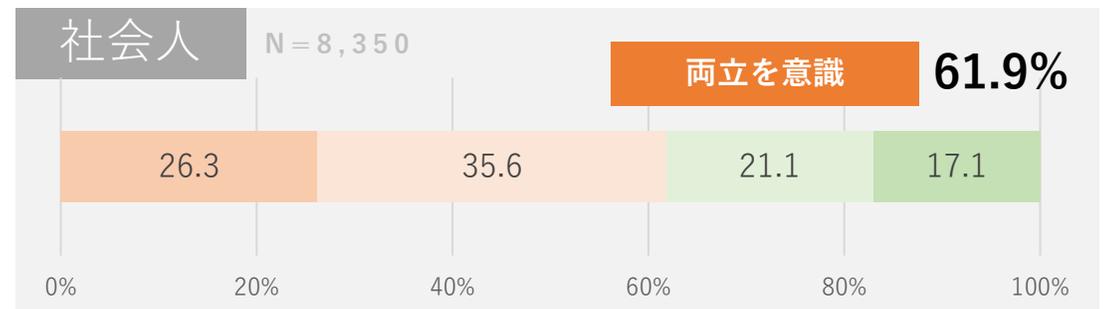
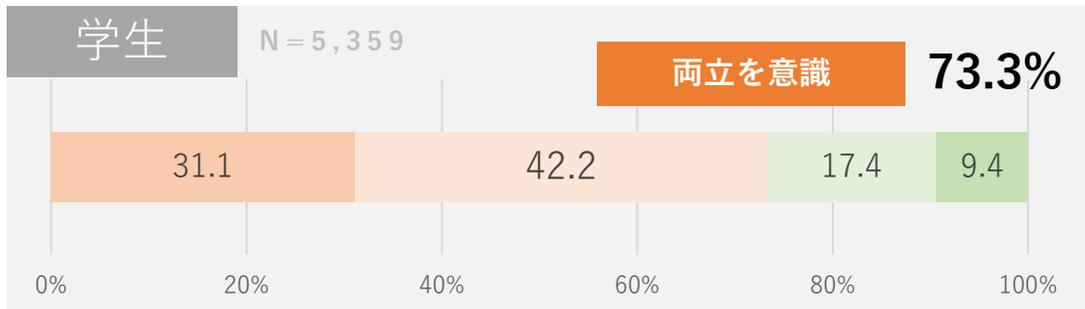
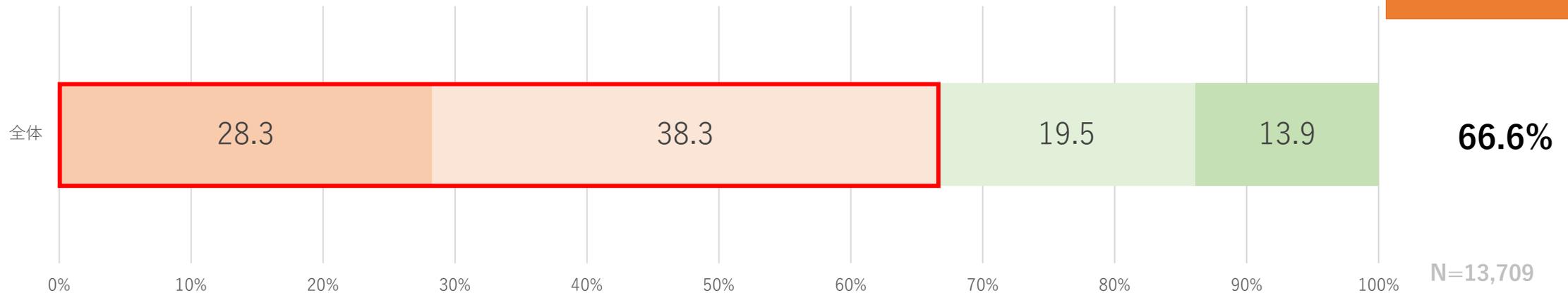
(※) 「育休を取得したい」、「育休をどちらかという取得したい」と回答した者

若年層の約7割が、会社を選ぶときに、「仕事（キャリア）とプライベートの両立」を意識している。

■あなたは、新卒で入社する会社を選ぶ際に、将来の仕事（キャリア）とプライベートの両立を意識していますか（意識していましたか）。

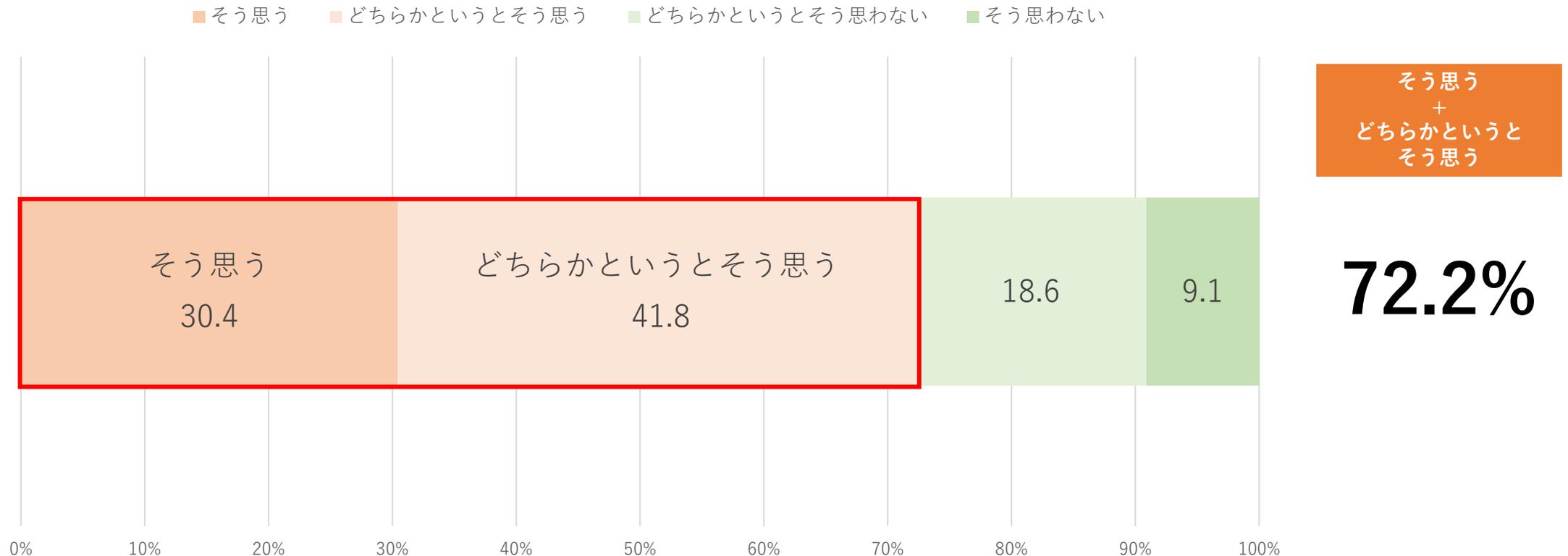
- とても意識している（とても意識していた）
- やや意識している（やや意識していた）
- あまり意識していない（あまり意識していなかった）
- 全く意識していない（全く意識していなかった）

とても意識している
+
やや意識している



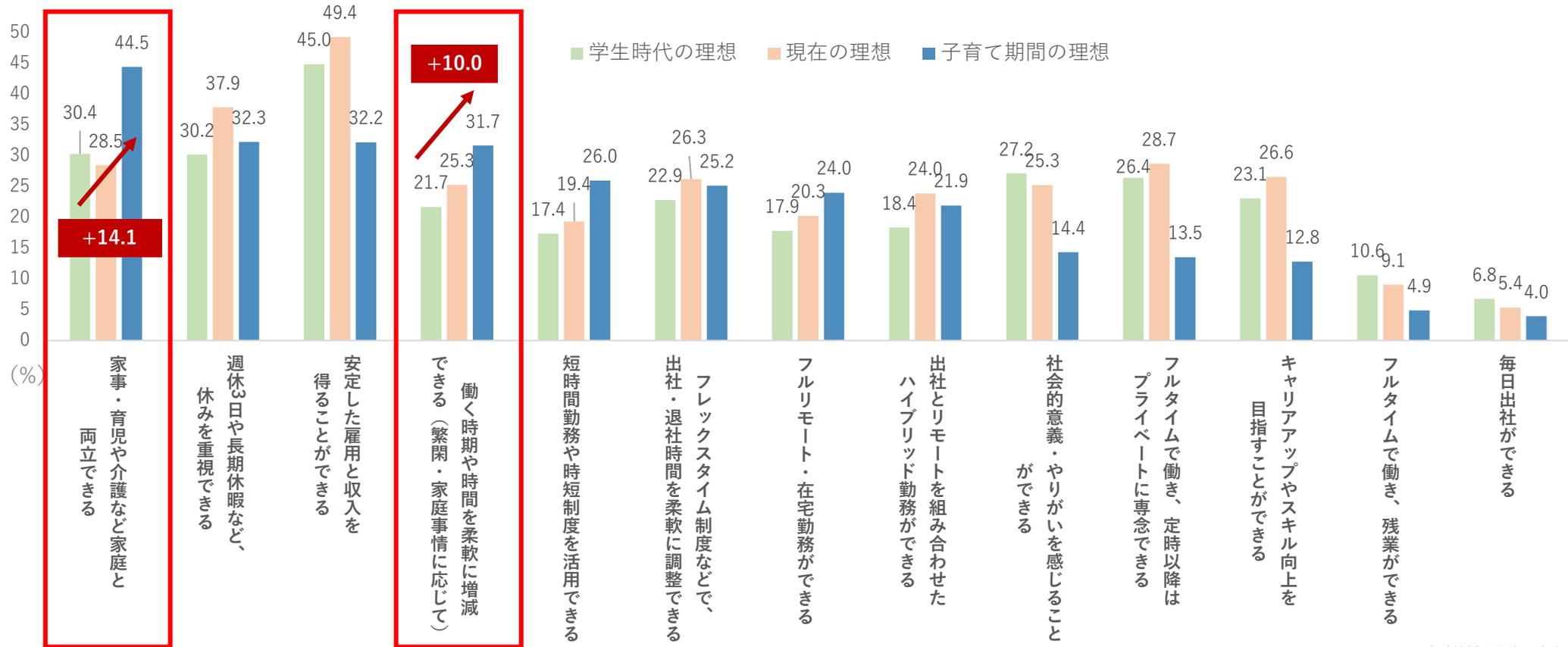
「仕事と育児の両立に不安がある」と感じる若年層は72.2%。

■あなたの仕事や育児に対しての想いのうち、以下に対してどのように思いますか。
「私は、仕事と育児の両立に不安がある」



若年社会人の「子育て期間」の理想の働き方は、「学生時代」や「現在」と比較して、「家事・育児や介護など家庭と両立できること」、「働く時期や時間を柔軟に増減できること」を理想とする割合が高くなる。

■ あなたの理想の働き方について、就活時、現在、子育てをする時期のそれぞれ教えてください。



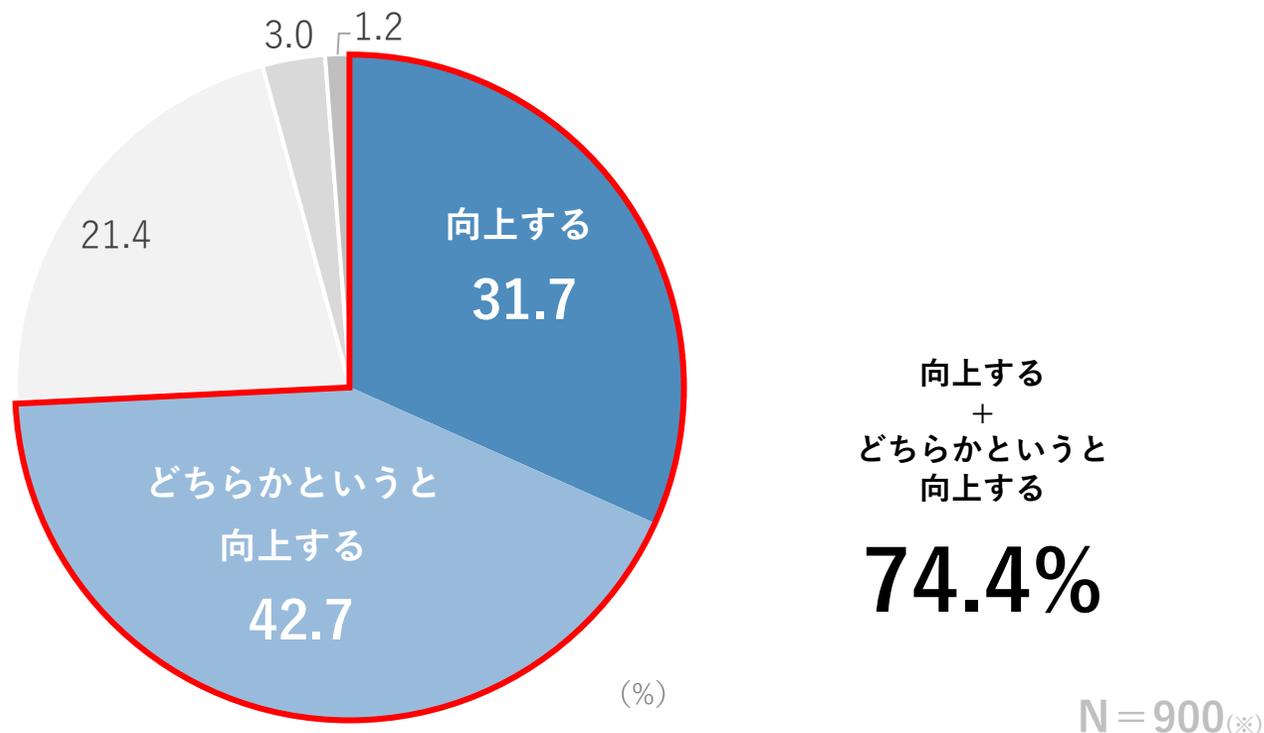
N = 1,011(※)

(※)結婚や子育て意向のある社会人1-5年目の者

若年社会人の中で、理想の働き方が実現した際に 仕事のモチベーションが高まると回答したのは74.4%。

■ 理想の働き方が実現した際、仕事のモチベーションがどの程度変化するかを教えてください。

■ 向上する ■ どちらかというと向上する ■ どちらともいえない ■ どちらかというと向上しない ■ 向上しない



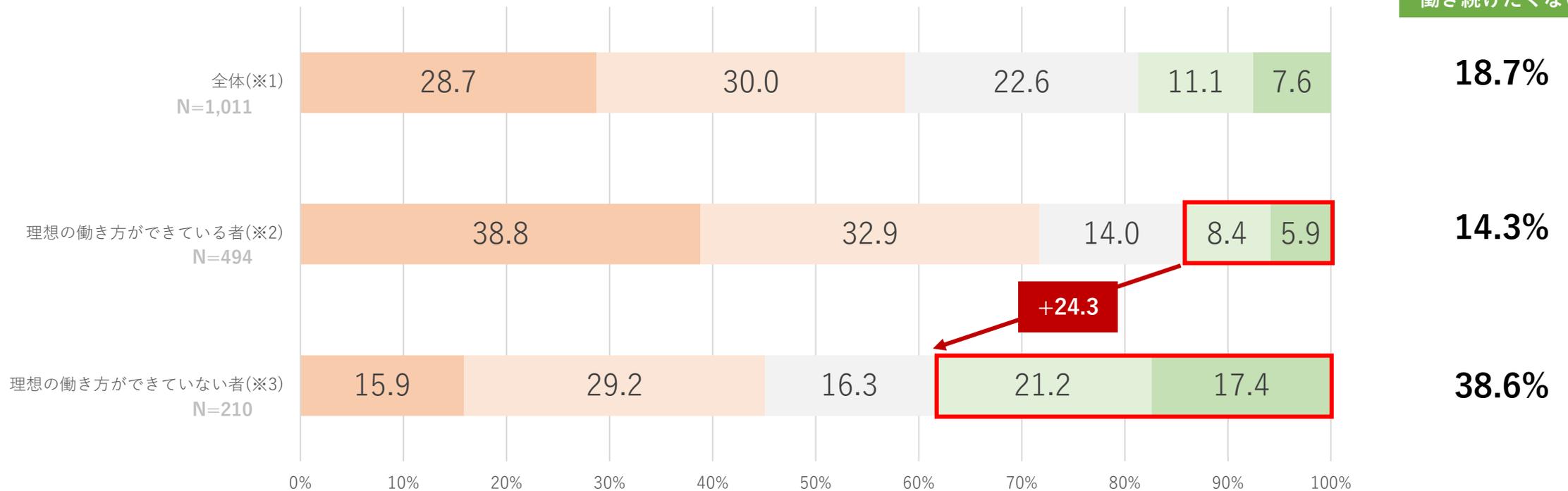
(※) 結婚や子育て意向のある社会人1-5年目の者のうち、子育て期間において「理想の働き方は特になし」と回答した者を除く

理想の働き方ができていない若年社会人は、 理想の働き方ができている若年社会人に比べて、 子育て期間における離職意向が24.3ポイント高い。

■ 子供を授かった後の期間で、あなたはどの程度今の職場で働き続けたいと考えていますか。

■ 働き続けたい ■ どちらかという働き続けたい ■ どちらともいえない ■ どちらかという働き続けたくない ■ 働き続けたくない

働き続けたくない
+
どちらかという
働き続けたくない

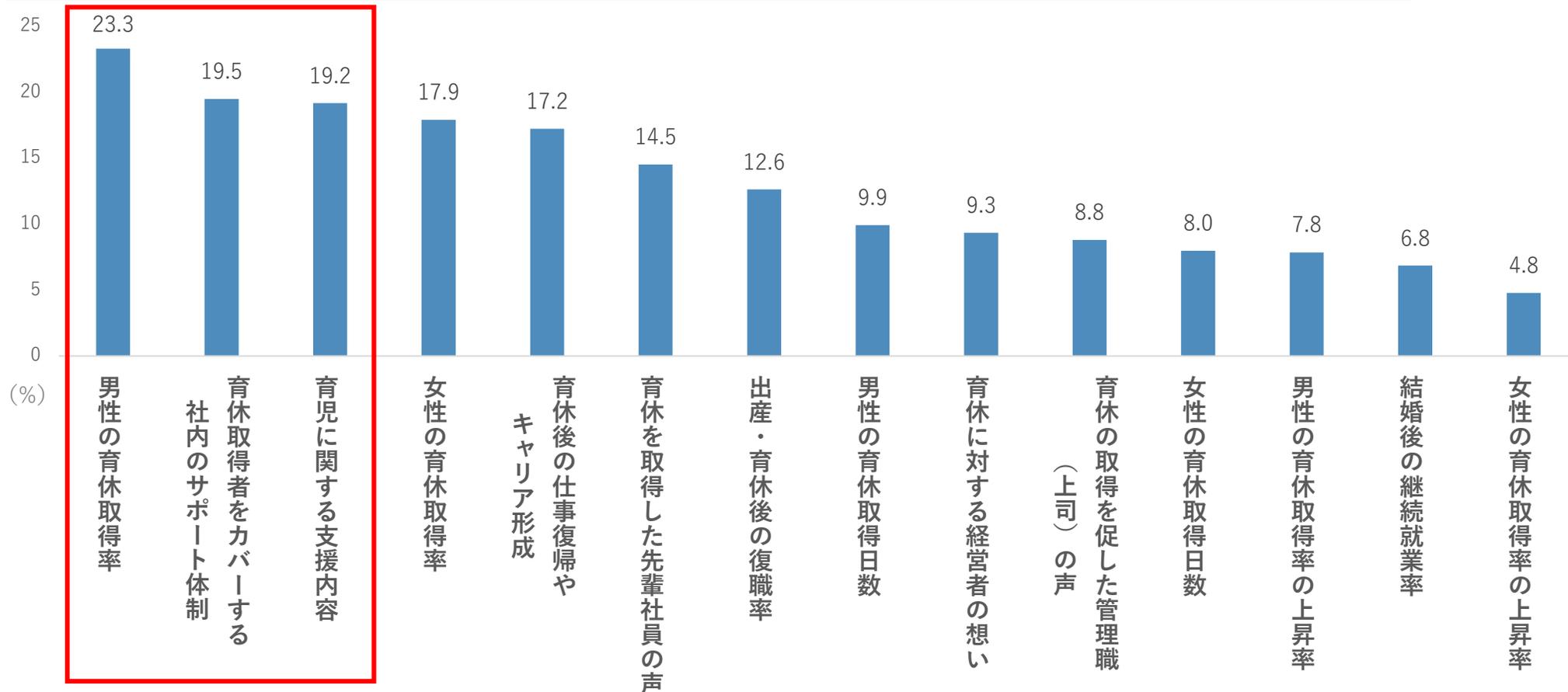


(※1) 結婚や子育て意向のある社会人1-5年目の者
 (※2) ※1のうち、「理想の働き方ができている」、「どちらかという理想の働き方ができている」と回答した者
 (※3) ※1のうち、「理想の働き方ができていない」、「どちらかという理想の働き方ができていない」と回答した者

03 共育で実現のために 企業に求めること

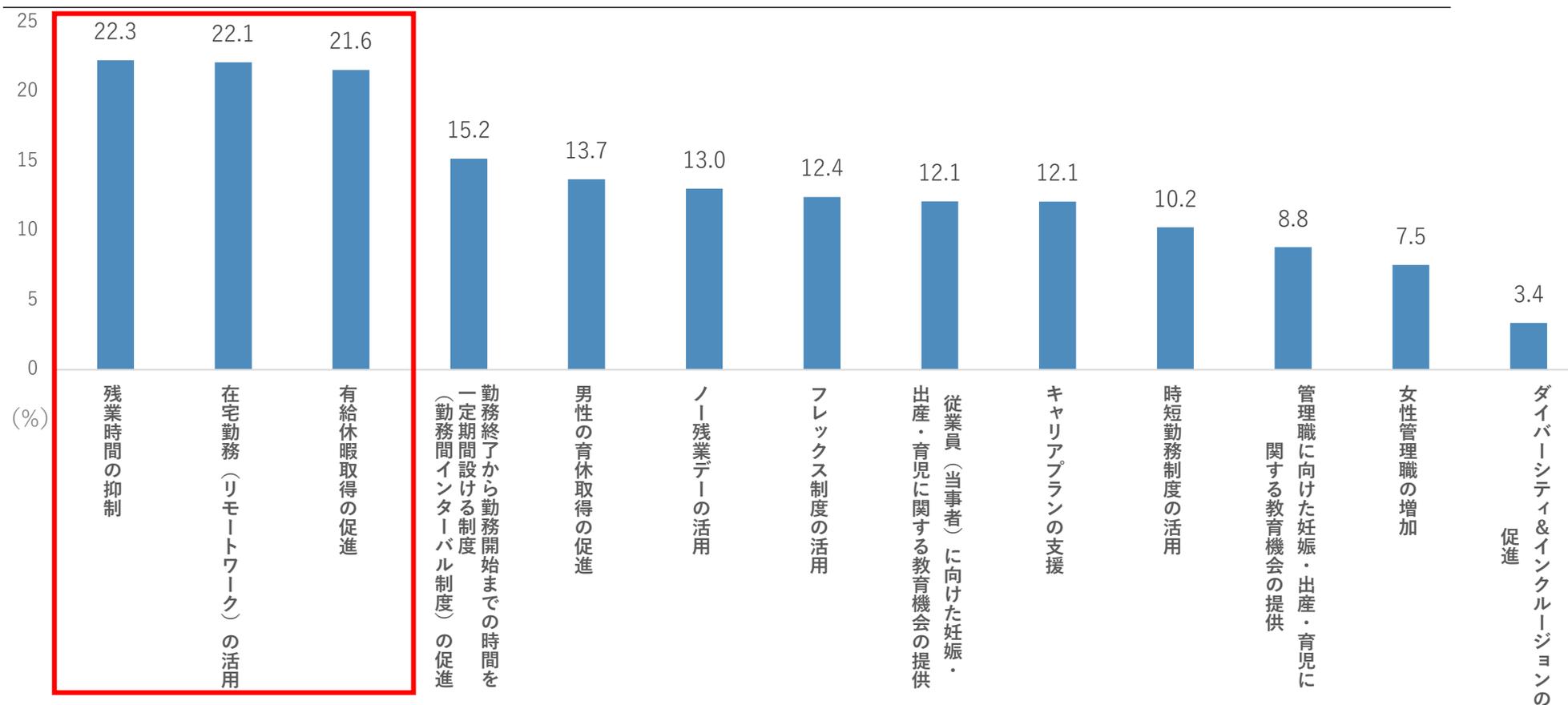
若年層が就活で重視する「結婚や出産に関わる情報」は「**男性の育休取得率**」が最も高く、次いで「**育休取得者をカバーする社内のサポート体制**」「**育児に関する支援内容**」が多い。

■あなたは企業からどのような結婚や出産に関わる情報があると就職したい気持ちが高まりますか。



若年社会人が理想の働き方を実現するために求める支援として、上位に「残業時間の抑制」「在宅勤務の活用」「有給休暇取得の促進」が挙がる。

■あなたが理想の働き方ができていないと感じる要因は、以下のどのような制度や取り組みが充実していないことにあると感じますか。



N = 210(※)

(※) 結婚や子育て意向のある社会人1-5年目の者のうち、「理想の働き方ができていない」、「どちらかという理想の働き方ができていない」と回答した者